



第86回－第6章「創意と忍耐の前に『不運』はない」(その5)－

★ 夢を打ち上げる発射台

一つの夢を持っているのだが、それを打ち上げる発射台を建設するのに必要な土台がまだ整備されていない。どうすればよいだろうか。

段階を追って、その夢を育んでいくことである。

第一段目（巢立ちの段階）：「この夢を必要とする人がいるだろうか？」と問うてみる。その夢を実現することで利益を得る人が確かにいる、ということがわかったら次に進む。

第二段目（テストの段階）：夢をテストする段階である。3つの基本的な問題を問いかける。

①この夢は人の心を癒すだろうか？②それは人々にとって意義のあることだろうか？③誰か他の人がやっているだろうか。もしそうなら自分は那人より良いサービスを安い値段で提供できるだろうか？

第三段目（投資の段階）：一旦やると決めたら、実際に投資して実行に移さなければならない。

第四段目（積極思考の段階）：消極思考の習慣を脱皮して失敗を恐れない気力を身につける。

第五段目（試練の段階）：誰でも困難に遭遇する。新しい大試練に遭遇するものである。

第六段目（頂上を極める段階）：夢が実る瞬間まで終始信念を堅持して登り続ける。山頂、完結。

夢を描き、高い目標を持たなければならない。実践においては一步一步着実に進まねばならない。途中で幾多の困難に出会うだろう。信念のある人は必ず目標を達成できることを知っている。

★ 人生は芸術であって科学ではない

信念の道を歩めば、適切な行動を、適切な方法で、適切な時期に実行するペース配分を会得することができる。

いろんな時がある、災難にあつてくじけそうになる時もある。慌ててはいけない。何があつても動じるな。絶望の淵に追いやられても、神を信じて、進み続けることだ。悩んでも、悩まなくても結果は同じだ。同じなら、気楽に行こう。そして、気持ちのペース配分を誤らなければ、私たちは、人生の長い旅路で、たとえ引き潮に出会っても、満ち潮に出会っても、いつも明るい気持ちで旅を続けていくことができる。

全知全能の神に全託すれば、すべてのことが実に見事に調整されてゆくのである

〈MIKO〉

□ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より